

## 平成14年度家畜ふん尿処理利用研究会 ——最近の家畜ふん尿処理技術開発の動向と成果——

本年度の家畜ふん尿処理利用研究会は中央農研との共催により11月19日(火)～20日(水)の2日間、栃木県の塩原町文化会館で開催され、約170名が参加しました。平成16年の家畜排せつ物法の完全実施を目前に控え、関係機関の技術成果及び開発中の技術を総点検し、今後重点化すべき技術を明確にするという趣旨のもとに検討が行われました。

話題提供では、生産局畜産環境対策室の末國班長から情勢報告があり、平成16年まで野積み・素掘りを解消するための緊急対策を行うが、17年以降も高度な処理施設の整備は続くこと、平成16年11月という期限を延ばすことは考えていないこと、未完成の段階でもいいから農家に示せる技術を出して欲しいこと、などが述べられました。

当所からは最近のプロジェクト研究、とくにバイオリサイクル研究などを中心に、それらの経緯や主な成果、計画等を紹介しました。

「地域における課題と要因別技術開発の取組み」では、はじめに九州沖縄地域の取組みを九沖農研の薬師堂チーム長が、次いで他の地域の状況を北海道農研の中村室長、東北農研の山下室長、中央農研の生雲チーム長及び近中四農研の早坂室長が紹介しました。深刻な地域ほど強力に取り組まれているようでした。

2日目は「補助事業等による技術開発の取組みと成果」について、生研機構の西元課長及び道宗主任

研究員、(財)畜産環境整備機構の野口部長及び研究所の伊藤部長の4氏から話題提供があり、民間、大学、公立研究機関等への助成、委託による技術開発の成果が多く紹介されました。

総合討論は①堆肥の流通利用・品質、②水質浄化(脱色、N・P除去)、③臭気対策及び④簡易低コスト処理に分けて検討され、県でも耕畜連携研究を進めるべきだ、地域の立地に応じた有機性廃棄物の循環をすべきだ、などの意見が出されました。最後に座長より、全国的な研究担当者の情報交換会を開きたいとの希望が述べられ、閉会しました。

(畜産環境部上席研究官 代永道裕)



総合討論

